

科目名	基礎看護Ⅵ (診療の補助・与薬・感染予防技術)				DP1、DP2、DP3 DP4、DP6	看護高等課程	
学年	1年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	30時間	担当教員	専任教員
科目概要	診療に伴う看護技術は、医師の指示に基づいて行い、身体に直接的または間接的に医療機器や器具を用いることが多く、身体侵襲や苦痛を伴い、医療事故や感染のリスクも高い。そのため、人体の構造と機能の理解や安全管理、感染予防を視野に入れ、診療の目的を達成するために正確かつ安全・安楽に実践する方法を学ぶ。処置の種類・目的・原理原則、根拠を踏まえた看護技術の実際と羞恥心や苦痛の軽減に向けた看護を学ぶ内容とした。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防の知識を身に付け、感染を予防・防止するための方法を実施できる。 2. 診察・治療における看護職の役割が理解できる。 3. 検査の種類や方法を知り、検査における注意事項や観察点を述べるができる。 4. 安全で痛みを最小限にした採血方法を実施することができる。 5. 与薬や輸血を安全に実施するための方法が理解できる。 						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1～15	感染予防の技術		感染とは、援助の知識、衛生的な手洗い、速乾性手指消毒、滅菌手袋の装着、ゴーグル、ガウンテクニック、隔離、無菌操作、医療廃棄物の処理			講義 演習	専任教員
	感染予防の技術		感染予防の援助の実際				
	診療に伴う看護技術		診療、主な検査（検体検査、尿検査、便検査、喀痰検査、咽頭分泌検査、血液検査、血糖試験紙法による検査）、ECG、画像診断のための各種検査法（単純X線検査、造影検査、X線CT検査、磁気共鳴画像、超音波検査、内視鏡検査）における注意点、与薬、薬剤のばく露防止			講義 演習	
	与薬の技術		与薬とは、経口的与薬、直腸内与薬、経皮吸収パッチ、点眼、点耳、点鼻、吸入、注射法（皮下注射、筋肉内注射、皮内注射、静脈注射、点滴静脈内注射、麻薬の取り扱い、点滴中断と再開、輸血、針刺し事故の防止・事故後の対応、患者の誤認防止策の実施			講義 演習	
	採血の技術		採血の技術の実際			演習	
	与薬の技術		与薬の技術の実際（皮下注射・筋肉注射・シリンジ・注射針、点滴静脈内注射、誤認防止、無菌操作、医療廃棄物の処理等）			講義 演習	
	試験					試験	
評価基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。						
教科書	新看護学 6基礎看護 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新看護学 7基礎看護 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護後術 医学書院、必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							